

コンソーシアムの活動状況を知っていただくため、不定期でかわら版を発行しますのでご一読ください。

## ● 令和4年度「県産材流通対策セミナー」を開催しました

令和4年7月4日（月）、岐阜市内において、令和4年度「県産材流通対策セミナー」を開催しました。

セミナーでは、一般社団法人JBN・全国工務店協会で国産材委員会委員を務める木村木材工業株式会社（埼玉県北本市）の木村司氏から、「欧州材時代から国産材時代へ」と題して、ご講演いただきました。

木村氏からは、ウッドショックやロシアによるウクライナ侵攻の影響等に対し、以下のような提案がありました。

- ・欧州材（ホワイトウッド、レッドウッド）集成材の日本への輸出量は減少していくことから、在庫のあるうちに「これなら使える」と思える国産材などへ切り替えること。
- ・使いたい国産材を確保するためには、山へ、製材所へ足を運び、「顔の見える関係づくり」が必要であること。
- ・長尺針葉樹合板をはじめ国産合板の供給が厳しさを増す中、材料確保のためには早期発注が大切であること。

木村氏の講演に引き続き、ぎふの木ネット協議会の吉田香央里氏から「ぎふの木をつかって、森と地域と人を守る取組み」、岐阜県木材協同組合連合会の正村洋一郎氏から「白川LSC（Local Supply Chain）システム構築の取組」と題して事例発表していただきました。



木村司氏による講演



吉田香央里氏による事例発表



正村洋一郎氏による事例発表

なお、オンラインでの配信にあたり、事務局側の不手際により、一部講義の内容が配信されないなどご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫びします。

▼裏面へ続く

## ●「作業者同士の現場視察・意見交換会（木樵の技術交流会）」を開催しました

令和4年7月8日（金）～9日（土）、飛騨市神岡町及び高山市久々野町において「作業者同士の現場視察・意見交換会（木樵の技術交流会）」を開催しました。

伐採や重機の操縦など現場作業を担う森林技術者は、他の林業事業体の森林技術者と交流する機会が少ない状況にあります。

このため、林業事業体の垣根を越え、森林技術者同士が交流・意見交換することで、互いに労働安全性や作業効率の向上につなげる交流会を開催しました。

今回は、中濃森林組合、株式会社丸光イトウ、白川町森林組合そして笠原木材株式会社から11人が参加し、飛騨市神岡町の笠原木材株式会社の伐採作業現場を題材に意見交換を行いました。

参加者からは、「木材生産は、木材に触れる回数が増えるほどコスト増につながることから、土場の位置や広さを検討してはどうか」、「木材が傾斜地にはい積みされているため、積込作業中に崩れ、事故につながる危険性がある」、「毎日のKY活動について、マンネリ化しないような工夫が必要ではないか」といった意見が出されました。

他の林業事業体からの意見は、労働安全性や作業効率の向上に向けた「新たな気づき」につながることから、参加者からはとても有意義であったとの感想が寄せられました。

2日目は、高山市久々野町の笠原木材株式会社のモデルハウスや木材リサイクル工場を視察しました。

森林整備・伐採を専門とする森林技術者にとって、川下側の木材利用の現場を確認する機会は少ないことから、参加者は大変興味深く視察していました。

年度内に2回目の現場視察・意見交換会を開催する予定ですので、興味のある林業事業体の方は積極的に参加をお願いします。



現場説明・作業聞き取り



意見交換会



モデルハウスの視察

---

コンソーシアムで取り組んでほしい活動などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。

---

発行：岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 事務局（岐阜県立森林文化アカデミー内）  
〒501-3714 美濃市曾代88 / TEL:0575-35-2535 / FAX:0575-35-2529  
E-Mail: gifu.shinrin.consortium@gmail.com